

# 私たちの町の遺跡 伝説の山寺 池辺寺跡

## ■「伝説の山寺 池辺寺跡」

むかし、万日山と独鈷山の間には「味生池(あじうのいけ)」という大きな池がありました。この池に住む悪い龍を鎮めるために建てた寺が池辺寺(ちへんじ)で、奈良時代初期の創建と伝えられています。明治3年に寺はなくなり、現在は池上日吉神社が置かれています。

池辺寺にあった宝物の一部は、今も地元に残されています。寺の説話をまとめた縁起絵巻(写真1)、独鈷山の由来となった独鈷杵、五鈷鈴、龍のうろこ、多くの仏像などがあります。絵巻にある龍の話は、「熊本の昔話」としても有名です。

池上から山に上がった平(たいら)の百塚(ひゃくつか)地区で、昭和61年から発掘調査を行ない、平安時代初期の寺の建物跡、百基の石塔などが見つかりました(写真2)。金子塔(かなごのとう)と呼ばれる石碑の文字に「池辺寺の根本御座所は百塔」とあることや、地元に残る伝承などから、この遺跡が池辺寺跡と判明しました。遺跡の重要性が高く評価され、国史跡に指定されています。現在は史跡整備事業も進められています。

熊本市文化振興課埋蔵文化財調査室 網田龍生氏より

縁起絵巻  
(財宝管理委員会所有)の一場面



池上町 平  
百塚地区の池辺寺跡

